

令和4年度の教育活動等における学校評価書

令和5年 2月 28日

学校法人 麻機幼稚園園長 高橋明人

学校法人 麻機幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標 「健康で明るく元気な子」 「元気いっぱい」 「やる気いっぱい」 「笑顔いっぱい」
2. 教育方針 自然に恵まれ、うるおいとゆとりのある環境の中で、さまざまな物や事柄に興味・関心を持ち、大勢の人とかかわり合いながら、身体を精一杯動かしたり、遊びを工夫したりして、自分の考えを持ち、自分で行動できる子を育てる。このような資質を持った次代を担う人づくりを目指す。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果 A:よくできている B:概ねできている C:余りできていない D:できていない

評価項目	評価	自己評価の視点、理由、改善点など	評価	学校関係者評価委員会意見
0 子どもの姿	A	<p>○学年目標から子どもの姿を評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの学年目標に子どもの姿が近づいているとした自己評価率は100%である。どの職員も子どもの成長を実感している。</li> <li>「元気いっぱい」では、ほとんどの教師が本園の子どもたちを「明るく活発」な子だと捉えている。</li> <li>それは、園庭など戸外の遊びを促したり、一緒に遊んだり身体を動かして伸び伸び遊ぶことを勧めてきたためである。</li> <li>また、朝元気に1日のスタートが切れるように、園バス到着や送迎などに合わせて、全保育者が明るく、元気に子どもたちを迎えるという体制づくりができてきているからである。</li> <li>「やる気いっぱい」では、活動の導入を大切にすること、具体的な言葉かけをすること、そして何より、自分でできたこと、やったことをまず教師が認め、みんなの前で褒めることなどを行ってきた。</li> <li>遊びの質を高める点では、気持ちを引き出すことや遊びを継続させることなどに、課題は残る。保育計画の見直しとともに、振り返りを重視していくことが必要だと考える。</li> <li>「笑顔いっぱい」では、教師と信頼関係ができていたり思いやりの心と前向きな姿勢が育っていることがうかがわれる。教師としての大きな役割は、「笑顔で接すること」「言葉かけを大事にすること」「子どもの話を聞くこと」と認識しており、子どものお手本になる教師でありたいという気持ちがある。それが子どもたちにいい影響を与えている。</li> </ul>	A	<p>○教育目標そのままの子どもたちで、挨拶が習慣化されている。普段の生活や保育の内容からも教育目標へのアプローチがされている。</p> <p>○来園すると元気に園庭を走りまわりながら積極的に元気な挨拶があり、歓迎されている感じがして気持ちよくなる。部屋に入った時にも挨拶が自然とあり、心が和らぐ感じがした。</p> <p>○「元気いっぱい」どの子も明るく元気いっぱい遊んでいる。体を動かすことを楽しんでいる。</p> <p>「やる気いっぱい」先生の言葉かけでやる気が出ていることがわかる。「走れ走れ」の参観でも走りたい気持ちが出ていたり、着替えも一人でやってみようと思っていたりがんばる姿が見られる。</p> <p>「笑顔いっぱい」先生から笑顔で楽しそうに取り組んでいるから、子どもたちも笑顔になっている。</p> <p>○活動している姿、先生に話しかけている姿から目標に達していることが分かる。</p>

<p>I 保育の計画性</p>	<p>B</p>	<p>○保育の計画 ・保育の計画としては、園の方針などを捉えつつも、<u>幼稚園教育要領や「目指す10の姿」を意識し、主体的に遊ぶ子を育てるまでには至っていない。幼稚園として、また自分のキャリアの中で今までやってきたことを中心に、毎年保育活動を繰り返してきたということが大きいのだろう。教師自身が子どもや活動の記録をとることや子どもへの願いやねらいをもち、子どもへの興味関心、周囲の状況変化に対応しながら計画をつくり上げていくことへの意識が薄いことを認識している。</u></p> <p>○行事に向かって ・今年度は、コロナ対策をしながらできるだけ年間行事を実施する方向で計画と実践を繰り返してきた。行事の中で幼児が育つということは、幼稚園との関わり以上に、ともに行事に参加する保護者との関わりや園とは別の環境下での教育効果が高いということである。 この点は、コロナ過でも、このような教育効果を期待して、最大限に行事を企画運営する強い意識が教師に必要だった。総合主任を中心に、このような意識の元で滞りなく行事を進めていったことへの価値は大きい。また、2学期からは、行事一つ一つに振り返りの場面を設けた。職員一人一人が、状況や改善点などを詳しく記入し、改善する機会をつくること、次の活動計画見直しへのきっかけにできるようにしたい。</p>	<p>B</p>	<p>○コロナは、行事の在り方(目標、内容)手立てなどを見直すチャンスではないか。全てをコロナ前に戻すのではなく、先生が本年度の行事をいかに実行するかを考え実践したのがあるがありがたい。こういう視点で保育計画を立てることで、目指す「自分で考えて行動する子」が増えていく。</p> <p>○コロナ過で行事ができない中でも工夫されていることが分かる。<u>麻機の歴史や文化についても、広めていただく</u>とさらに良い。</p> <p>○行事に向けて、気持ちを盛り上げたり、練習をしたりする事がしっかりできていると感じた。</p> <p>○子どもの成長に合わせた取り組みをしていると感じる。学年毎できる事を増やし、挑戦させることで学びにつながっている。 コロナ過で制限されることも多い中、子どもたちが楽しめる行事が多い。家ではできない体験ができる。</p>
<p>II 保育の在り方 幼児への対応</p>	<p>A</p>	<p>○健康と安全への配慮 ・安全への観方や遊びの危険性、体罰につながるような子どものかかりについて、全教師がよりよい対応をしているという自負がある。実際に、毎月提出する「養護日誌」には園内での長期的に治療を要する大きな怪我はなかった。 昨年度の怪我を振り返り、4月から遊具の安全点検をし、全教師で遊び方のルールを再度共有するなど、危機管理へ意識をもっている。</p> <p>○幼児の見取りと理解を指導に活かす ・本園の強みは、教師の年齢構成のバランスがよく、子ども一人一人に目を向けることができるということである。園児の性格や特性などを全職員で共有していることも多く、園全体で子どもを育てていると感じている教師が多い。教師一人一人の持ち味も異なるが、全体的に明るく子どもと接している。 ・毎朝朝礼で、短い時間の中でも、配慮を要する子どもの情報を出し合っているが、このように時間を有効的に使い、コンパクトながら、確実に情報共有ができる時間の位置づけが大切だと考える。今後も意図的に情報発信するように投げかけていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>○子どもが健康的に過ごせるように努めている。先生が楽しく過ごすことが健康に繋がっている。遊びのルールも先生がしっかり伝えることで安全確認ができていて、子どもが理解してルールを守ることができている。</p> <p>○園全体に<u>整理・整頓</u>がされ、ゴミ等も落ちておらず安全性が保たれている。この状態を維持するのは大変だが<u>継続</u>をお願いしたい。また、毎朝朝礼で配慮する園児の情報共有がされていてよい。</p> <p>○本年度は他市他県で大きな事故があり点検が大変だったろう。教室が整理整頓され、健康安全への配慮もしっかりされていると感じた。児童館館長さんによると、学年を超えた思いやりが育っているとのことだった。 <u>温かな声かけ→ほめる→一人一人の見取り</u></p> <p>○子どもを見てくれる先生が担任以外にもいるので安心。</p>

<p>Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正</p>	<p>A</p>	<p>○専門性を磨く ・全29項目中、20項目が100%の達成率である。ここに挙げられていることは、教師としての資質や意識に関わる最低限の項目も多いために、できるだけ多くの達成率でなければならないと言えらる。 そんな中、低い達成率だったのは、「専門知識や技能を身に付けるために専門書を読んだり、研修に参加したりしている」という学ぶ姿勢についてが、50%である。今まで自身が行ってきた保育実践の積み上げで保育が成り立っている実感があるためではないかと考えられる。</p> <p>・「特別支援教育」については、教師として今後理解を深め、実際にどのように子どもを育てていくかという技能を身に付けることがとても大切になっていく。私立幼稚園といえども、国が示している教育方針に注目し、これからの時代を生き抜く子どもを幼稚園の段階でどう育てていくか、考えなければならない。</p>	<p>A</p>	<p>○保育者としての資質として、専門性以上に先生が、子どもに負けないくらいに元気なところがすばらしい。 丁寧さ、受け止め、聞く力という資質があつての保育</p> <p>○専門性の達成率が、たくさんの業務をこなしながらも、7割近くあることがすばらしい。今後も、努力する姿が見られると良いと思う。</p> <p>○体操では、小さなところからの積み上げができる活動を組んでくれている。</p> <p>○保護者と先生の距離が近いことは、子育ての相談がいつでもできるという安心感につながっている。</p>
<p>Ⅳ 保護者への対応</p>	<p>A</p>	<p>○保護者との信頼関係 ・私立幼稚園として、園の教育内容に理解をして入園してくれているので、コロナ対策を含め、園への協力体制はしっかりできていると感じる。特に、担任教師と保護者との関係は、保護者の担任への壁が小さく、気軽に相談していただける関係になっているのではないと思う。いろいろな場面で保護者と関わる場面があり、まず量的には、コミュニケーションがとれている。</p> <p>○園や学級での様子を伝える 保護者にとっては、行事で子どもの姿を見ることは、大変大きな幼稚園への目的になっている。運動会や発表会という大きな行事になると、両親が参加するという場面も多い。教師は、その点も踏まえた行事の見せ方を考えている。 また、ホームページや園だよりなどを中心にいろいろな形で園の様子を公開している。ホームページ内のパスワードのかかったページには、行事で撮った写真が、1つの行事でも100枚単位で納められ、閲覧できるようになっている。また、大きな行事には、報道への依頼文書も出し、幼稚園として価値ある活動をしていることを広報してきた。まずは、ご自分のお子さんがどんな姿で活動しているか、保護者の方々に分かるように伝えたい。</p>	<p>A</p>	<p>○先生と何でも相談しやすい雰囲気がある。 園で怪我があつた時などにすぐに連絡してくれるので安心して預けることができる。</p> <p>○先生一人一人が話しやすく相談もでき、送迎や行事、ホームページで園の様子がわかるため(写真もたくさん載っている)、保護者の理解も得ている。保護者との良い信頼関係が築けている。</p> <p>○教師同士の連携がある。保護者が安心して園での活動の話が家庭でよく話されている。保護者の話から信頼関係ができていくことがわかる。</p> <p>○時間の制約がある中で保護者と面談を行い、関わりを大切にしていることが分かる。園児の出欠席についても、確認などのマニュアルが徹底されていることが確認できた。また、保護者と先生の信頼性は、時間的に少なくとも毎日行われているようで評価できる。</p>

<p>V</p> <p>地域の自然や社会とのかかわり</p>	<p>B</p> <p>○地域の自然を活かす          ・地域の自然については、教師も未就園児遊びの広場でのアンケートでも本園の良さとして捉えていることである。          けれども、それを保育に積極的に活かしていく意識は低いようだ。          ・地域の人とのかかわりではあいさつを含め、本園教師の対応は良く、今年度行われた地域を活かした活動ができる限り進めてきた。          ・どろんこ遊び・じゃがいも さつまいも収穫・みかん狩り などである。          ・地域の方が知らせてくれたアサギマダラという珍しい蝶々の到来を見ることができ、<u>地域の良さを見つけ、貴重な体験ができるようにしたい。</u></p> <p>○自然物を使った遊びや製作          自然をいかすことの難しさは、計画的に進めることができないことである。年間を見渡して、自然に合わせて何ができ、それが子どものどんな成長に結びつか、<u>ねらいを踏まえた教材開発を考えなければならぬ。</u>今までの保育が蓄積されているので、今までやってきたことをどのように、効果的にやることができるかなど、新しいことを考えるよりも改善していくことを大切にしたい。コロナ過でできにくかったことを今後できるようにしていくことが、今のところの目標だと考えている。</p>	<p>B</p> <p>○麻機の地域性をいかし、自然の中で教育をしていると感じる。日頃より園外に出て教育されているのが多々見られて良い事だと感じる。<u>地域を好きになってほしい。</u>  <u>地域の良さを伝える活動が取り入れられたら良い。</u>地域では緑地公園の活用をメインに考えている。「沼のばあさん」など<u>地域に伝わることもわかってほしい。</u>          ○この地域にはたくさんの財産がある。地域とは、互いがWINWINになる協力関係ができればいい。          ○自然をいかす活動は、広い地域を活用している。けれども、<u>自然物を使った遊びについては、自然物を持ち帰ることはあるが、それを違う形に変えられるような製作活動があったら、想像力がプラスになると思う。</u>          ○個人では季節に合わせた遊びができていると思う。花や芽等を使い想像力で遊んでいる。園全体としては、<u>遊びながら学べる体験などを取り入れ、地域の自然を体感してほしい。</u>花や葉を使った製作、落ち葉のプール、雪遊びなど普段できないことを取り入れてほしい。          ○どんぐりもたくさん拾い、子どもの宝物になっているが、これを製作に生かして遊ぶことができたらいい。</p>
<p>VI</p> <p>研修と研究</p>	<p>B</p> <p>○研修への意欲態度 教師としての専門性に関する研修          「子どもの見取りと内面理解の研修を行い、子どもに寄り添う研修をしている」という自己評価が最も高い。自己の保育への教材研究、自己課題、指導との関わりの在り方への研修に意欲的であり、保育に活かしているという自負がある。          けれども、保育改善への研修計画作成や記録と考察について、<u>環境の再構成による本園環境の生かし方については、64%の達成率に留まっている。</u>さらに、「園の研修方針や計画を理解し、計画的に公開保育をしたり、事後研修に参加したりして、学びを高めた」ことについては、28%という低い達成率であった。<u>保育でのP(計画立案)D(実践)C(振り返り)A(改善)が十分に</u>なされていないことが分かる。          ○「遊具・教材・園内外環境への研修」          これらについては、各教師の今まで積み上げてきた保育実践により、子どもの力をつけているという自信になっている。その反面、季節を感じる素材の活用、自然や廃材を使った製作や遊び、本園の特質についての教育的な意味を理解することについては、50%という低い達成率である。自然物の活用は、</p>	<p>B</p> <p>○先生の仕事内容も多くなっている中で工夫をされ、がんばっている様子が分かった。研修で<u>それぞれの課題の達成率を上げることは園として必要な事だが、何か一つに特化することも一考の余地があると思う。</u>  <u>麻機幼稚園だからこそできること、育つことへの特化も</u>考えられる。          ○私立幼稚園の特色ある教育園を推進する中で、<u>幼稚園教育要領が目指す子ども像を育成できたらすばらしい特色(強み)になると思う。</u>          ○私立幼稚園としての特色をいかしながら、<u>今求められている子どもへの保育をどのようにしていくか。</u>          ○小学校と一緒に研修できたらいい。</p>

	<p>タイムリーに対応しなければならないため、計画を立てにくいこともあるだろう。けれども、<u>ベテラン教師の対応力やアイデア、若手教師の機動力や柔軟性をいかして取り組むこと</u>により、このような保育の質の向上が期待できる。</p> <p>○今日的課題に対する研修 子どもを取り巻く今の社会は、多様性に溢れ、日々大きく変化している。私立幼稚園としても、<u>そういう社会の変化に対応した園経営と保育の在り方を考えなければならない</u>。と同時に、<u>本園の特色を生かし、さらなる保育の充実を図ることで未来を担う子どもたちを育てたい</u>。そのためには、<u>今日的な課題への問題意識を各教師がもち、目の前の子どもを育てるための保育とは何かを考えていく必要がある</u>。来年度は「<u>特別支援教育</u>」についての研修をするなど、<u>的を絞った研修を繰り返していきたい</u>。</p>	<p>○麻機幼稚園+αとして、<u>幼稚園としての研修とは別に、この園としてどういう保育ができるかどうかという研修も必要</u>だろう。</p> <p>○麻機幼稚園を選んだきっかけは、ちびっ子体操などで体を動かすことを重視していること、<u>自然の中で過ごせることへの魅力を感じてのこと</u>だった。</p> <p>○<u>コロナ過での活動や時代の流れに沿ったやり方を考える</u>てほしい。</p>
--	---	---

#### 4. 今後取り組むべき課題

##### (1) 保育計画の見直しと充実を図る

○「目指す10の姿」を意識した保育計画の見直しと立案（年間計画と月案）

・年間計画は「いかす」「つなげる」「かかわる」をキーワードに、保育の整合性とレベルアップを目指し、具体的な計画立案と振り返りにより改善を図る。月案づくりを重点に、PDCAサイクルを意識した取り組みを行い、令和5年度は「やる気いっぱい」の姿が多くみられるようにする。

##### (2) 地域の自然や社会とのかかわり

○地域の自然をいかす。園外保育など地域を活用した保育計画を今後も継続していくと同時に、地域の自然や人等に触れ、地域の良さが伝わるような手立てを考え実行する。

○自然を使った遊びの充実を図る。自然の中で季節を感じ思い切り遊ぶ体験や自然物を用いた遊びや制作活動を計画し実施する。

##### (3) 研修の充実

○専門性を磨くこととしては、「特別支援教育」を学び、配慮が要する子への支援だけでなく、全ての子どもが保育のねらいを達成できる支援の在り方、子どもの捉え方を学ぶ。

○生活や技能習得等、発達に応じて段階的な支援ができるように、具体的な指導項目をまとめる。（例：製作に必要な技能の指導の内容と手立て等）

○全学級定期的な公開保育を行い、保育者のねらいに沿った保育実践の研修として、保育の基本や子どもの捉え方等を学び合う。